

令和5年度 第1回「北九州市教育支援委員会」会議録（要旨）

1. 日 時 令和5年5月12日（金）15時00分～17時00分
2. 形 式 ハイブリッド形式（集合・オンライン）
3. 出席者 〔北九州市教育支援委員〕緒方直彦委員（副会長）他15名
（欠席：大平委員、鳥越委員、山口委員、大谷委員）
〔事務局〕特別支援教育相談センター所長 北野里香他9名
4. 議事次第
 - （1）令和4年度 教育支援委員会の答申に基づく就学相談・通級相談の結果について
 - （2）令和5年度 教育支援委員会事業計画
 - ① 各種事業開催日時及び会場（案）
 - ② 教育支援委員会分掌及び業務（案）
 - ③ 就学先決定に伴う手続き（案）
 - （3）令和5年度 就学相談会実施要項
 - （4）令和5年度 就学相談会の申込みについて
 - （5）就学相談に係る答申とは異なり総合的判断を行って就学措置した児童生徒の状況調査

5. 議事（要旨）

- （1）令和4年度 教育支援委員会の答申に基づく就学相談・通級相談の結果について

（事務局）令和4年度も新型コロナウイルス感染症対応のため、集合型の大規模な相談会は実施せず、事務局による就学相談会を計画的に実施した。申込み数は前年度から就学相談は200件、通級相談は153件と大幅に増加し、過去最大の申込み数であった。就学先の内訳としては、特別支援学級（自閉症・情緒障害）の大幅増加が見られる。

通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある児童生徒について、実態や支援状況を明らかにするため、文部科学省が調査を実施し、令和4年12月に結果を公表した。小中学生は8.8%と前回調査より、2.3%増加しており、増加の要因を文部科学省では、「保護者や教員の発達障害への理解が進み、対象者につい

て気づきやすくなった」と分析している。この傾向は本市の就学相談にも見られ、知的障害特別支援学級への措置数は微増にもかかわらず、自閉症・情緒障害特別支援学級への措置数は約100件増となっている。

(委員) 家や部屋から出られないなど引きこもりのある児童生徒に対する教育委員会の相談体制について情報提供をお願いする。

(事務局) 教育委員会では不登校等支援センターを設置し、不登校等の相談やオンライン学習を実施している。また、各学校ではGIGAスクール構想で整備されたタブレット端末を活用した学習支援を行っている。このように、支援の手を広げ、必ずつながる取組を進めている。

(2) 令和5年度 教育支援委員会事業計画

(事務局) 第2回教育支援委員会も今回同様ハイブリット形式で実施する予定である。本年度は西地区就学相談会(教育センター)を全30回予定している。また、4年ぶりに夏期就学相談会を実施する。

就学相談事業の基本方針としては、新小学1年生と新中学1年生を優先して実施する。早い時期の就学先決定と円滑な手続きを目指すために、本年度は関係園や特別支援学級担任等への説明会等を通して、就学相談への理解啓発を行っている。また、ホームページに就学相談の流れと手続きについて、資料をアップしている。

(委員) 医療的ケアが必要な幼児児童生徒、特に幼児に対する支援体制について説明をお願いする。

(事務局) 総合療育センターの地域支援室等と連携し、早期から情報提供を行うとともに、情報収集を行ったうえで丁寧な相談を進めていく。

(3) 令和5年度 就学相談会実施要項

(4) 令和5年度 就学相談会の申込みについて

(5) 就学相談に係る答申とは異なり総合的判断を行って就学措置した児童生徒の状況調査

(事務局) 本年度も対象者に対し、学校訪問や電話連絡による聞き取り等を通して、状況調査を実施する。必要に応じて管理職や担任、特別支援教育コーディネーターとケース会議等を行い、継続的な就学相談の促しを実施する。状況調査の結果については、第2回教育支援委員会で報告する。

(事務局) 5月8日に新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に変更されることをうけ、当センターの感染症対応も更新するが、相談者の意向に応じた感染症対策を行い、相談業務を実施する。